

규대인 : 九州大学韓国人研究者紹介

李, 相穆

九州大学大学院言語文化研究院 : 准教授 | 九州大学韓国研究センター : 准教授

<https://doi.org/10.15017/2004989>

出版情報 : 韓国研究センター年報. 17, pp.6-8, 2017-03-31. Research Center for Korean Studies,
Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

李相穆 (イ・サンモク) 准教授



プロフィール

言語文化研究院准教授、韓国研究センター准教授。
博士（国際文化）。

専門は、言語メディア教育論、韓国語教育。

担当科目は、韓国語I・II・III、韓国語の表現と読解、言語メディア教育論、地球社会フィールド調査法など。

主要著書に、李相穆（2012）『マルチメディアと外国語教育』九州大学大学院言語文化研究院FLC叢書など。

専門について

——まず先生の御専門からお伺いして宜しいでしょうか？

李 私の専門は言語教育です。言語教育に関心を持っています。特にそのなかでもマルチメディアが言語教育のどのように影響するのか、言語教育におけるマルチメディアの効果に関してについて研究しています。普段、外国語を学習するとき、テキストだけではなくオーディオや動画、たとえばYouTubeやTedといったメディアを使用していると思います。マルチメディアが言語教育に効果があるというのは、皆さんご存知なのでしょうけれども、じゃあその効果とはなにかと聞かれたら、教師も答えられないと思います。

——マルチメディアと言語習得の関係について研究されているんですね。

李 より細かくいうと、視覚に注目しています。たとえば、図は学習者の記憶に働きかけて印象付ける役割をしています。図を使った言語教育



李相穆准教授の御著書

は昔から行われてきましたが、最近は静止画だけでなく動画もよく使われています。動画では、イメージが固定されていない、様々な情報が流

れますが、その中のどの部分が言語教育に役立つのかについて研究しています。

——動画をみると言語の習得が速いというのは、私も身をもって体験していますが、その理由はまだ解明されていないのですね。

李 また外国語を習得するためにはその国で勉強することが一般的に効果的だとされていますが、なぜ母国では外国語の習得が遅いのかについても関心を持っています。この部分とマルチメディアの特性が関係しているのではないかと考えています。

——視覚に注目しているとおっしゃいましたが、もう少し具体的にお伺いできますか？

李 私はその中でもイメージスキーマ (image schema) という概念に関心を持っています。言語習得には、頭が理解しやすい形が有効的です。例えば、アウトラインやアニメなどがあります。ですが、記憶として残るのは写真なのです。理解と記憶のプロセスはことなるという点に着目して研究を行っています。

——言語に関心をお持ちになられた経緯をいうのは？

李 学部は日本文学、日本語が専門でした。4年間勉強しても、韓国語のアクセントが抜けきれませんでした。10年以上日本に住んでる韓国人でも、韓国語のアクセントがのこっている場合がありますよね。逆もそうですが。どうして



母国語のアクセントが残ってしまうのかということに興味がありました。

——それを修士課程で学ばれたのですか？

李

そうですね。有効的な教材は一体どういうものなのか、作成することを目的として、東北大学に進学しました。

——東北大学で博士号を取得されて、九州大学にいらした経緯についてお聞きしてもいいですか？

李 博士号を取得した後、東京大学で日本語教育の教材作成に2年ほど携わりました。

——その後、九州大学にいらしたのですね。

李 東北大学と東京大学で研究を行いながら、九州大学との共同研究にも参加していました。そういった経緯で、九州大学の六本松キャンパスを訪れる機会が何回かありました。それがきっかけで九州大学に関心を持つようになり、九州大学に2009年、招へい外国人研究者としてきました。

韓国人研究者から見た九州大学

——福岡にいらした印象はどうでしたか？

李 個人的な意見ですが、韓国人としては外国というには近すぎるという印象があります。

——それは地理的な意味ですか？

李 地理的にもそうですが、料理、方言なども韓国と福岡は似ている点も多いと思います。

——それは私も感じます。東京と韓国の距離感と、福岡と韓国の距離感はまったく違いますよね。研究者として九州大学にいらしたとお伺いしたのですが、九州大学は外国人研究者、とくに韓国人研究者からみてどのような印象をお持ちでしょうか？

李 日韓関係の資料が豊富に残っているという印象があります。書籍だけではなく、現物など

も残っているというのは強いと思います。もう一つ、韓国研究センターもやっていることですが、韓国関係の研究者が多いので、他の研究者と連携して包括的な研究が可能であると思います。

——李先生は7年ほど九州大学にいらっしゃるということですが、韓国人研究者同士のネットワークというのはたくさんあるのでしょうか？

李 九州大学には韓国人研究者が意外と少ないですね。九州大学は国際化に少し遅れをとっているような気がします。国際化を目指すのであれば、外国人教員や英語の授業を増やしていくべきだと思います。

——国際化の指標というのは色々あると思うのですが、特に九州大学が力を入れるべきはどこだとお考えでしょうか？

李 個人的には、海外の大学との共同研究や国際シンポジウムを積極的に行っていくべきだと思います。

日韓関係と韓国研究センターの果たす役割

李 日韓関係というと改善すべきものという捉えてる人が多いような気がします。私は少し考えが違います。隣国同士というのは、大概仲が悪いですよ。あまりにお互いに期待値が高すぎるので、何をやっても日韓関係が進展していないように見える。そうではなくて、今の状況でもいいんだと捉えたら、逆にもっと協力できる分野が広がるような気がします。

——現状を肯定的にとらえて、そこから何ができるかということへと視点を変えるとということですね。

李 そうですね。

——李先生は韓国研究センターの複担教員としても関わっていらっしゃいますが、今後韓国研究センターはどのような役割を果たしていくべきとお考えですか？

李 韓国研究センターは、現在、歴史に重点をおきつつ研究を進めていますよね。

これをいかに社会に還元するのかという視点が大切だと思います。シンポジウムや研究会は学者間での交流が中心になってしまいます。関心がない学生や、一般の方にはどうしても研究の内容が伝わりにくくなっていると思います。

なので、福岡という地理的利点も考慮して、わかりやすい日韓交流史といった講座を開催したらどうかと思います。

——それは市民講座ですか？

李 そうです。まったく韓国に関心がない人でも足を踏み入れることができるような、わかりやすいテーマ・日韓の基礎的な部分を講座として開設すれば、知識の還元という大学の責任も果たせますし、様々な部分に貢献できると思います。韓国語の授業を受けている学生も、日韓の歴史には関心がない傾向があります。例えば、日韓関係史の入門があればいいと思います。

——センターが行っている研究をどのように還元していくかという部分にも注目していかなければならないですね。

李 民間レベルの交流と大学レベルの交流は少し異なります。民間レベルの交流の拡大のためにはどのような役割をはたして行くべきなのか、もう少し積極的に関わっていく必要があると思います。

——貴重なご意見ありがとうございました。

インタビュー日：2016年12月14日

場所：韓国研究センター1階会議室